Ⅳ　結果

外部専門家を活用した授業改善の取組について，外部専門家，保護者，教員によるアンケート結果は次のとおりである。

１　外部専門家アンケート結果（平成25年12月実施）より

記述回答については，一部抜粋した。

①-1　リハビリテーション課との連絡会（５月）について　（回答数13）	
目的に合った取組ができている	（３名）　23.1%
ほぼできている	（８名）　61.5%
どちらともいえない	（２名）　15.4%
できていない	（０）
・授業の中に取り入れる等，リハビリ場面を参考に学校で取り組んでくれている。 ・学校の方針も確認できるので連携しやすい。 ・リハビリの場面を工夫して学校の自立活動等の時間に取り組んでくれているため，先生の協力があって子どもの姿勢・運動のバリエーションが増やせている。 ・特に姿勢・運動に関することは，意見交換してレベルを上げていけると思う。 ・学校職員がリハビリの実態把握はできると思うが，リハスタッフから子どもの情報について聞くことができにくい。	

①-2　リハビリテーション課との連絡会（２月）について　（回答数9）	
目的に合った取組ができている	（３名）　33.3%
ほぼできている	（５名）　55.6%
どちらともいえない	（１名）　11.1%
できていない	（０）
・成果として出ていた。 ・大きく目標も変わらないし，先生方も児童のことをよく理解されている時期なのでそれまでにお互いご相談させてもらっているから特に話し合うことはないように感じる。	

② リハビリテーション課授業参観（平成24年度・25年度）について　（回答数13）	
目的に合った取組ができている	（１名）　7.7%
ほぼできている	（８名）　61.5%
どちらともいえない	（３名）　23.1%
できていない	（１名）　7.7%
・学校での状態を確認でき新鮮だった。 ・学校での様子がよくわかった。 ・リハビリ場面では見られない児童生徒の一面を見ることができた。 ・訓練中に気になる行動が学校ではどのようであるか一面を見ることができた。 ・参観週間以外の時，問題があれば参観できるようにしてほしい。	

・参加できなかった。

③ リハビリテーション課への相談について（個人的に相談した場合・相談用紙を使った場合）（H24・25）	（回答数11）
目的に合った取組ができている	（２名）　18.2%
ほぼできている	（７名）　63.6%
どちらともいえない	（１名）　9.1%
できていない	（１名）　9.1%

・聞いてくれたことを実践してくれていると思う。また，リハビリの方でも情報をいただけて役に立っている。
・学校での現状もよく分かり，具体的アドバイス等がしやすかった。
・身体の緊張の弛め方や動かし方をアドバイスすることで，授業中における目的を達成できるよう協力したい。
・母親からの相談や学校での姿勢など気になることは気軽に相談させてもらっているので良い情報交換ができていると思う。・具体的な内容の質問であり，話がしやすかった。
・参加できなかった。

④ ＰＴまたはＳＴによるコンサルテーションについて	（回答数6）
目的に合った取組ができている	（１名）　16.7%
ほぼできている	（１名）　16.7%
どちらともいえない	（３名）　50.0%
できていない	（１名）　16.7%

・コンサルのＰＴより授業の様子や内容の報告を受けることができた。
・先生方によって求められる目的が異なるため，よくわからないが，先生方が行っていることが実際に目的に結びついているかどうか疑問はある。
・コンサルテーションの後の経過などをみたいと思う。
・ビデオに記録したものをリハスタッフに視聴してもらい，意見を聞いてみたい。

⑤ 学校との連携について	（回答数11）
現在の取組を継続することでよい	（６名）　54.5%
少し見直しが必要である	（４名）　36.4%
大きな見直しが必要である	（１名）　9.1%

・もう少し困っていることに対する対応や大きな目標などが共有できたらよい。
・担当児童全ての参観は，しにくいと思われる…。
・授業参観，リハ見学などの取り組みはよいと思う。形式的なものにしないでほしい。
・医療と教育の区分がまだまだあり共通の視点がもてない所も多いように思う。
・授業の場面にＰＴ，ＯＴ，ＳＴが入っていても授業が進んでいくような，常に医療と教育が混在するようなことも考えてみてはどうか。

・建物の増設後，以前に比べて連携が活かしにくくなったように感じる。

⑥　学校との連携等について，今後望むこと等
・スケジュール調整がつかず，参観等もすることができていない。放課後にも，リハに声をかけることが，少なくなりつつある状況なので，個人的相談にしてもらえると対応しやすい。 ・学校の空き教室のスペースを利用して，リハ専用教室等ができればよいと思う。授業の１つとしてリハビリの時間を組み，専門スタッフ（ＰＴ・ＯＴ・ＳＴ）と先生で授業しながらポジショニングを含めてセラピーをする。重度のお子さんが増え必要だと感じる。

２　保護者アンケート結果（平成25年12月実施）より

記述回答については，一部抜粋した。

①-1整形検診を活用し，自立活動の身体の授業内容について安心・安全な授業が実施できていると思いますか。（回答数26）	
とてもそう思う	（16名）　61.5%
そう思う	（９名）　34.6%
あまり思わない	（１名）　3.8%
全く思わない	（０）

①-2整形検診に保護者が参加することで，授業内容や指導方法を知ったり疑問点を解決することができ，医師や教員との共通理解が図れていると思いますか。（回答数26）	
とてもそう思う	（16名）　61.5%
そう思う	（９名）　34.6%
あまり思わない	（１名）　3.8%
全く思わない	（０）

・毎年，整形検診では詳しく説明をしてくれて，家庭でもできるアドバイスなどを教えてくださり，とても助かっている。 ・整形検診に参加できることが殆どなく医師からの説明も直接受けられないが，検診時の子どもの状態，医師の所見を用紙にでも書いてもらえるとありがたい。 ・子どもの主治医に来ていただけると，もっと効果的だと思う。 ・医師からの指導や助言で，もう少し理解していただき勉強してほしいなぁと思う。

② 教員が，実際のリハビリテーションの様子を見学することで，指導の参考にしたり，リハビリテーション課スタッフとの連携のきっかけになったりしていると思いますか（回答数26）	
とてもそう思う	（18名）　69.2%
そう思う	（７名）　26.9%
あまり思わない	（１名）　3.8%

全く思わない	（０）

・来年度以降も継続してほしい。
・子どもは日々成長しているので「持ち上がりで担任する場合は見学は行っていません」というのはおかしいと思う。先生が変わらずに同じ先生に見ていただける場合も，お願いしたい。（ＰＴ，ＯＴ，ＳＴそれぞれ違うことをしてくださっているので全てを見学していただきたい。）

③ 専門家による授業場面でのアドバイス（コンサルテーション）により，自立活動の授業改善につながっていると思いますか　（回答数26）

とてもそう思う	（17名）　65.4%
そう思う	（８名）　30.8%
あまり思わない	（１名）　3.8%
全く思わない	（０）

・現在は担任の先生の判断で必要であると思われる生徒のみが受けられていると思うが…保護者の希望も聞いてもらえるとありがたい。
・よく，ＰＴ，ＳＴ等よりアドバイスをもらい，それを基に接してくれていると聞く。リハビリ以外に，授業の中でも応用ができていたりと，生活リハビリの様でとても細かく丁寧に行ってくれており感謝している。
・総合療育センター以外に通っている訓練施設との連携もできればよいと思う。今年度は個人的に通っているＳＴの先生が学校に来ていろいろアドバスをしてくれたので，学校側から依頼をして来てもらえるようになればよい。

④ 学級・ホームルーム担任より外部専門家の指導・助言を受けていることについて学級・ホームルームの面談等で知る機会がありましたか　（回答数18）

あった	（16名）　88.9%
なかった	（２名）　11.1%

⑤ 外部専門家との連携について，今後望まれることがあれば，お書きください。

・更に連携を密に，今後も続けてしてほしい。
・ＳＴの先生には子どもたちの食事をしている所をみて頂き，食事中の姿勢であったり，食べ方であったりを定期的に指導していただいてはどうか。
・子どもは身長，体重が増加していくので，いろいろな問題が次から次へと生じてきている。センターが隣接しており，専門家のご意見を常に取り入れてくださるので，とてもありがたく思っている。
・学校の先生をとおして情報を得ることはできると思うが，外部専門家と保護者が直接話ができる機会があってもよいのではないかと思う。

３　教員のアンケート結果

１）平成24年12月実施教員アンケートより

平成24年度のアンケートについては，外部専門家を活用した各取組について，どのような点で役立ったか，あてはまるものをすべて選択し回答したため，複数回答になっている。記述回答については，一部抜粋した。

整形検診について		（回答数32）
実態把握が深まった	（31名）	96.9%
目標設定が明確になった	（13名）	40.1%
指導内容や指導方法が明確になった	（19名）	59.4%
評価が明確になった	（5名）	15.6%

・身体の状態と留意事項が明確になった。（6名）
・医学的な視点に立った助言をいただき，児童への指導が安心して行えた。（5名）
・指導内容の確認ができた。（4名）
・１日で全校児童生徒全員なので時間が限られあわただしい。（4名）
・姿勢や装具の理解が深まった。
・保護者も同席してくださり，指導目標が明確になった。
・個々の生徒について医療面の内容や日常のことを相談することができた。
・年度初めの１回目は，もう少し時間の余裕がほしい。

リハビリテーション課との連絡会（５月）について		（回答数23）
実態把握が深まった	（23名）	100.0%
目標設定が明確になった	（19名）	82.6%
指導内容や指導方法が明確になった	（22名）	95.7%
評価が明確になった	（５名）	21.7%

・授業に取り入れることのできる内容があり，一部参考にさせてもらった。（4名）
・中心的な課題がつかみやすく，目標設定の参考になった。（3名）
・実際に身体へのアプローチを見てＯＫをもらったり，目標に対しての実態との整合性を確認できてよかった。
・持ち上がり担任の場合は見学なしになっていたが，ＰＴ担当の方が変わった場合は見学させてほしい。
・度々相談に行かせてもらうことができたが，お忙しいので行きづらく感じた。
・学校と違った姿が見られた（児童の好きな活動がわかった）。

ＰＴ・ＳＴによるコンサルテーションについて		（回答数30）
実態把握が深まった	（26名）	86.7%
目標設定が明確になった	（17名）	56.7%
指導内容や指導方法が明確になった	（28名）	93.3%
評価が明確になった	（６名）	20.0%

・具体的な指導方法を教えていただき，授業に取り入れることができた。（9名）

・有効に活用するために，校内で課題の絞り込みや下準備をする必要がある。(4名)
・大変貴重な機会なので，補教や合併等の時間割調整をして，担当者の他にビデオ撮影者を出す体制が確保できればよい。(4名)
・１回だけでは，変化を相談できないので，２回以上受けたい。(2名)
・日頃行っていることの再確認ができた。
・安全に食事をするための姿勢のアドバイスを受け，指導する上で不安が減った。
・車椅子の姿勢や，臥位姿勢のポジショニングについて，もっと連携を深めたい。

コンサルテーション報告会について	(回答数31)
自立活動の指導に有効な情報が得られた	(22名)　71.0%
コンサルテーションの助言をふり返り整理できた	(16名)　51.6%
学部内の自立活動指導の情報交換がしやすくなった	(17名)　54.8%

・ふだん他クラスや児童の実態を見る機会はないので，ビデオでその児童の課題とともに見ることができてよかったし，応用できるような情報も知ることができてよかった。
・学部児童の取組を知る機会となり，担当している児童に活かせる内容があった。
・担任だけでなく，学部の教員で共有できたことで，他の場面で生かされたり，他の生徒の支援にも生かすことができた。
・実施時間や報告会のポイント，プレゼンテーションのあり方等，よりよいものにしていくあり方を考える必要がある。
・担当者間の共通理解をしていると時期が遅くなることもある。
・共通となること，有効な手立て等ポイントを絞る。

リハビリテーション課の授業参観について	(回答数28)
実態把握が深まった	(９名)　32.1%
目標設定が明確になった	(８名)　28.6%
指導内容や指導方法が明確になった	(18名)　64.3%
評価が明確になった	(２名)　7.1%

・授業参観ではあるが，後で意見等をいただくことができ，授業等の参考にすることができた。(10名)
・リハビリテーション課の先生より，違った面を見ることができてよかったとの感想をもらった。(2名)
・簡単にだが指導案を書き，再確認できた。
・参観がメインだったので，本当はもう少し聞きたかった。６月と10月のみなので，参観がもっと自由なものになるといいと感じた。
・見ていただきたい授業とリハビリテーション課より見たい授業のお互いのニーズが合うかどうか気になった。

その他の意見

・連携の図り方については，どの程度とるのか。専門家の方に迷惑でないか。お互いにメリットが出せるかについては常に考える。
・特定の人の負担が大きくならないように配慮したい。
・お互いに忙しく，以前のように気軽にちょこちょことアドバイスをしてもらうことが減ったように思う。
・校内で授業力向上の意識を高め，学び合う体制を整えて，チームでアドバイスを受ける等がよいのでは。（例：Ａさんの自立活動を担当している４名が授業について話し合い，代表で１名がコンサルを受け，報告会をもって共有するのがよいのではないか。）
・個別の教育支援計画との連携が不十分である。
・連携は好ましいことだが，指導案・記録等書類が多い。

２）平成25年12月実施教員アンケートより

記述回答については，一部抜粋した。
次の問いは複数回答になっている。

平成25年度外部専門家を活用した取組を受けた（行った）人数　（回答数52）	
整形検診（ H25年５月・９月）	(41名) 78.8%
リハビリテーション課との連絡会（H25年5月・リハビリ見学）	(31名) 59.6%
リハビリテーション課との連絡会 （これについては昨年度H25年２月の情報交換会）	(14名) 26.9%
PTまたはSTによる教員のコンサルテーション（ H25年）	(31名) 59.6%
リハビリテーション課への相談 (H25年度に個人的に連絡をとった場合・相談用紙を使った場合)	(13名) 25.0%
リハビリテーション課による授業参観（H25年7月・9月）	(15名) 28.8%

次の①から⑥については，４つの選択肢より１つ回答している。

① 外部専門家を活用して<u>実態把握</u>を深める（客観的な実態把握を行う）ことができたか　（回答数49）

とてもそう思う	(16名) 32.7%	特に活用した取組（複数回答）
そう思う	(31名) 63.3%	・PT・STコンサル（33名）
あまり思わない	（２名） 4.1%	・整形検診（22名）
全く思わない	（０）	・5月リハ課との連絡会（20名）

〈とてもそう思う・そう思う〉
・医学的・理学的な背景や要因等，専門的な視点について学ぶことができた。(7名)
・疾患や,障がいの特性について学ぶことができた。(2名)
・装具やいすの具合について，ＰＴに相談し，アドバイスを受けることができた。
・ＰＴコンサルテーションで分かりやすく教えていただいた。もう少し気軽に，期間を空けて再度取組を見ていただく機会がほしい。。
・リハビリ見学で，生徒の持てる力を知ることができ，実態把握に活用させてもら

っている（2名）。
・卒業後の生活について,はっきりと目標となる点が見えてきてよかった。
〈あまり思わない〉
・身体に関する学習については実態把握が深まったが，自立活動の学習活動全般においては深まったとは言えない。

② 外部専門家の指導・助言を活用し，児童生徒の目標設定を明確にする（目標の妥当性を高める）ことができたか （回答数48）

とてもそう思う	（10名）20.8%	特に活用した取組（複数回答）
そう思う	（32名）66.7%	・PT・STコンサル（27名）
あまり思わない	（６名）12.5%	・整形検診（21名）
全く思わない	（０）	・5月リハ課との連絡会（13名）

〈とてもそう思う・そう思う〉
・専門家に目標を見ていただくことで，目標の妥当性が高まった。(9名)
・専門的な視点から生徒の実態把握をした上で,妥当性の高い目標設定をすることができた。(3名)
・現在の実態に至る理由（発達的な視点）を教えていただけたことで，先を見据えた目標を考えることができた。
・課題となることを教えていただいたので,それをもとに学習場面で指導につなげることができた。
・学校であまり好きではない活動？と思っていたものが,リハビリでがんばっているのを見て,この目標で学校でもやっていこうと実感した。また次の目標を立てる上で参考になった。
〈あまり思わない〉
・事前に教員が決めた目標に合わせて手立てを教えていただいた
・身体の学習の目的,身体に関する基礎知識が十分理解できていないままなので,身体の状態と課題を関連づけることがとても難しい。
・身体に関する学習については目標設定が明確になったが，自立活動の学習活動全般については十分とは言えない。

③ 外部専門家の指導・助言を活用し，児童生徒の指導内容や指導方法を明確にすることができたか （回答数47）

とてもそう思う	（16名）34.0%	特に活用した取組（複数回答）
そう思う	（30名）63.8%	・PT・STコンサル（31名）
あまり思わない	（１名） 2.1%	・整形検診（21名）
全く思わない	（０）	・5月リハ課との連絡会（15名）

〈とてもそう思う・そう思う〉
・より専門的・具体的な指導内容や指導方法を明確にすることができた。(10名)
・自分たちが取り組みやすい方法を教えていただけた。

・活動の幅が増やせた。
・明確にまでではないが，実態が明らかになることで，考える糸口が得られた。
・指導の方向性や活動の方法については明確にすることができた。
・指導内容の妥当性を高めることができた。また，目標達成のためのいろいろなやり方を学ぶことができ，たいへん参考になった。
・生徒の活動を通して具体的にアドバイスをいただきよく分かった。
・コンサルテーションやリハ課との連絡会で子どもへの関わり方や指導内容を見せていただくことで,自分の授業を見直し改善できたと思う。
・学校とリハビリが同じ内容の活動をして向上していけばと思い参考にさせてもらった。

④ 外部専門家の指導・助言を活用し，安全・安心に取り組めるようになったか
（回答数46）

とてもそう思う	（12名）26.1%	特に活用した取組（複数回答）
そう思う	（32名）69.6%	・整形検診（29名）
あまり思わない	（２名） 4.3%	・PT・STコンサル（29名）
全く思わない	（０）	・5月リハ課との連絡会（13名）

〈とてもそう思う・そう思う〉
・医師に「大丈夫ですよ」と言われると安心する。特に新しい課題を始める場合心強い。(2名)
・自分の取組の意味づけや有効性について評価していただき安心して取り組めるようになった。(2名)
・生徒の実態に寄り添った形で安全・安心な取り組みを行うことができるようになったと思う。(2名)
・整形検診では，実際に教員が行っていることに対して，その場でアドバイスいただけるので，わかりやすい。
・身体の指導を行うので，骨等への負荷について医師にデモンストレーションをしていただき，実際に見て確認することができた。
・生徒自身が無理なくできる方法を教えていただき参考になった。
・骨などへの負荷についてデモンストレーションをしていただき実際に見て確認することで安心できた。身体のゆるめを専門的な視点で指導してもらえた。
・生徒にとっても教員にとっても,身近に相談・助言してもらえる方がいるのはとても安心できる。
・高度な内容をしていることもあった。逆に気をつけなければいけないことも教えていただいた。
〈あまり思わない〉
・頭では分かっていても実際に指導するとなると生徒の身体も大きく,安全安心に取り組めているかどうか分からない

⑤ 外部専門家の指導・助言を活用し授業改善した結果，児童生徒の評価を明確にすることができたか （回答数46）	
とてもそう思う	（10名）21.7%
そう思う	（25名）54.3%
あまり思わない	（11名）23.9%
全く思わない	（０）

〈とてもそう思う・そう思う〉
・実態把握や目標設定，指導内容が明確になることを通して評価がより明確になった。(7名)
・あいまいな基準で判断しがちだったが，見るポイントを知り，評価が明確にできるようになった。(2名)
〈あまり思わない〉
・学習とリハビリでは，めざすところが異なるため。
・評価は具体的な所を要求されるため，よく分からない。
・助言を生かして目標設定することはできたが，評価規準は教員が考えた。
・今回は，特に評価に関わる変更はなかった。

⑥ 外部専門家の指導・助言を活用し，自立活動の授業で，児童生徒に指導の効果が見られたか （回答数43）	
とてもそう思う	（12名）27.9%
そう思う	（25名）58.1%
あまり思わない	（６名）14.0%
全く思わない	（０）

〈とてもそう思う・そう思う〉
・食事が主体的でスムーズに行えるようになった。(2名)
・これまであまり動かしていなかった身体の部位を使うことができた。
・楽しみながらの活動ができるため表情がとてもよくなった。姿勢（ポジショニング）が楽になったのか活動粋が広がったように思う。
・特に初めて担当する生徒には,引き継ぎ資料だけでは不十分であるので適切な助言をいただけるのは大変効果的である。
・教員の活動内容が確実なものになったこともあり，共通理解を図り，学習に取り組むことにより効果が見られるようになった。
・ＰＴと共通理解を図り連携した取組を行ったことでＰＴ，教員共に効果を感じることができた。
・外部専門家と活用する機会があることで，相談しやすくなり，指導にもつなげやすくなった。
・助言を受けて，安心して様々な内容に取り組めた。
〈あまり思わない〉

・いざ実践してみると，困難な場面が数多くあった。
・今回の相談内容は実態について問う内容だったため，目標や指導については教員が考えた。よって目に見えるような効果が見られにくかったのは教員側の問題だったかと思う。
・大きく児童生徒に変容があらわれないことも多いため。
・今回の取り組みに関しては指導・助言をうけて生徒の変容も見られたが，これから新しい目標や課題設定をするとなるとやはり難しく感じる。

⑦ 意見及び今後望むこと

〈システムに関して〉

・年度初めにそれぞれの外部専門家の活用から得られるメリット，こう活用できる！という簡単な年間の全体的な説明があればよい。
・コンサルテーションは教員が主体的・意欲的に活用するほど効果が高いと思うので，誰でも活用できるシステムが必要。
・本校では身体に関する学習を専科の教員ではなく，担任を中心に行わなければいけないので，一人一人が目的意識を持って，少しでも知識やスキルアップすることが必要。そのために本校のメリット（医療機関に隣接し，活用しやすい）を活かしたコンサルテーションを継続してほしい。
・１学期に指導助言を受けて，２学期後半にもう一度効果を見てもらいたい。
・セラピストとの間に校内コーディネーターとして自立活動部員がもっと介入し，記録，相談内容, 指導助言についてしっかり把握していく。
・リハビリテーション課授業参観では，各ＨＲごとに日にち設定する等して確実に行うようにしてほしい。
・リハビリテーション課との連絡会（リハビリ見学）は，担任がそのままもちあがった場合でも，担当の先生や内容が変わる等あるので実施してほしい。
・保護者もコンサルテーションに同席することで，保護者・教員・専門家も三者が共通理解を図り，児童生徒の自立活動の取組を深めていければよい。
・授業改善システムという機会や場を設けなくても，児童生徒のことでスムーズに情報交換できるような環境づくりが必要ではないか。例えば，自立活動連絡会のような形で，学校の課題を伝え，それに対しての回答を後日いただく。
・外部専門家の導入はとても重要なことであるが，必要に応じた回数の実施を。
・もう少し簡単な方法で聞くことができれば…。改善シートの項目が多い。

〈教員の指導力の向上に関して〉

・アドバイスできる教員が＋１で授業に入れる時間が週に１時間あればよい。
・そのままが授業になるわけではないが，手立ての面でとても参考になった。また，チェックをしてもらうという意味でも大きく，現在の指導が子どもの実態にあっているのか，その他装具や車いすのチェック，食形態のチェックなど，専門家の意見が大変参考になった。
・多くの人が関わる際に安全な関わりという点でとても大きく，他動的なゆるめの

必要な児童も，関わり方ひとつで無理に動かさなくても力がぬける手法も知ることができた。
・特に食事に関してはとても成果が大きく，食形態から姿勢まで大変参考になった。また保護者の思いを専門家の意見で納得してもらったりして，食事がより安全なものにできている。
・子どもの身体の状態が変わることもあり，そのつど相談にのっていただけたので大変参考になり，ありがたかった
・指導力の向上を図ることは大変有効であると思うが，外部専門家に対する質問を十分に精査するだけの知識等が必要である
・将来入所する可能性のある施設の情報などが多くあれば，自立活動でもどのような指導を行っていくべきか具体的に考えやすい。

〈研修に関して〉
・コンサルテーションを受けた内容を一教員へのアドバイスに終わらせるのではなく，何らかの形でまとめていって学校の財産にする。
・指導助言の中で他の子どもに活かせることや全職員が知っておくべきことについては学部を超えて共通理解を図る機会（研修や資料配付）をもつ。
・課題があっても身体のどの部分に働きかければよいか分からず，短期目標を立てるのも難しい初心者に向けて，身体に関する校内研修等を充実させる。
・コンサルで指導を受けたことを校内に情報発信できるようにする
・授業検討会などを定期的にするようにしていくのも，負担感があるとは言いながら，必要なのではないか。各種研修会などで学んだことを伝達することなどが，もっとできたらよい。
・木曜の研修日を活用し，30分くらいの短い内容の校内研修を増やす。

〈自立活動について〉
・自立活動単体としてとらえるのではなく，学習活動全般とのつながりを教員が明確にし，外部専門家と協力することが大切。
・それぞれの教員の自立活動に対する理解や指導力の向上を図る体制，システムが必要である。
・自立活動の本来の意味を十分理解するとともに，その般化場面を想定した活動内容を考えていく必要がある。

〈情報発信について〉
・今たくさんの専門家に助言をいただいて，よりよい教育が展開されている。今後可能なら，学校も取組を情報として発信し，関係機関で生かしてもらう。

〈視野を広げた視点〉
・専門性が高まるということはいいことであるとともに，教育（全人的視野に立った人間把握）面で大切なことを捨ててしまうことにもなりかねないと思う。生徒を全人的にとらえる能力が教師に求められている。

４　アンケート結果まとめ

１）学級担任を中心とした，外部専門家を活用した授業改善の取組について

外部専門家・保護者・教員の三者によるアンケートの結果，**整形検診**については，26名中25名の保護者より，整形検診を活用して安心・安全な授業が実施できているという回答を得た。整形検診に保護者が参加することの必要性についても，ほとんどの保護者から「そう思う」との回答があった。教員からも「医学的な視点から実態把握が深まった」という多数の回答の他，「助言をいただき安心して指導ができるようになった」等の回答があった。医師の前で，実際に児童生徒への指導を行い，その場で直接，指導・助言を受けることで，気づきや自信が得られたことがわかる。

リハビリテーション課との連絡会（５月)については，三者ともよい取組であるとの回答が多かった。リハビリテーション課スタッフからは，「リハビリテーションの場面を参考に学校の取組を行っているため，子どもの姿勢・運動のバリエーションが増やせている」という回答があった。教員からも，可能な範囲で授業に取り入れたり，目標設定の参考にしているという回答が多かった。また，「専門的な視点をとおして実態把握が深まる」という回答も多数あった。相談や情報交換を行う機会にもなっている。26名中25名の保護者より，取組の必要性を感じるという回答があり，全児童生徒について見学を実施し，しっかり連携をしてほしいという意見があった。

リハビリテーション課による授業参観については，平成24年度は，スタッフの希望する授業について指導略案を作成し，参観後，感想やアドバイスをいただいた。その際，「学校での状態を確認でき新鮮だった」「学校での様子がよくわかった」「リハビリ場面では見られない児童生徒の一面を見ることができた」等の感想があった。教員からも，「授業参観ではあるが，後で意見等をいただくことができ，授業等の参考にすることができた」等の意見があり，相互に活用できたことがわかった。しかし，平成25年度は，各学期１週間，参観週間を設けて，事前に参観授業を決めず自由に参観してもらうようにした（９ページ参照)。その結果，参観者数が減ったことから，互いに目的を明確にして位置づける必要があることがわかった。参観については，医療機関に隣接した学校の利点を活かした取組である。リハビリテーション課のアンケート結果からも，よい取組なので，形式的にならないようにしてほしいという意見をいただいており，次年度に向けて見直していきたい。

ＰＴ・ＳＴによるコンサルテーションについては，26名中25名の保護者より，取組の必要性を感じるという回答があり「現在は担任の先生の判断で必要であると思われる生徒のみが受けられていると思うが…保護者の希望も聞いてもらえるとありがたい」という意見もあった。教員からは，専門的な視点をとおして実態把握が深まり，指導内容や指導方法が明確になったという回答が多数あった。コンサルテーションは，実際の授業場面で，直接質問をして指導・助言を得ることができる大変貴重な機会である。平成24年度末の教員アンケートで比較的多かった「有効に活用するために，校内で課題の絞り込みや下準備をする必要がある」を受けて，平成25年度は，ＰＴコンサルテーション前に，事前授業・授業検討会を行い，質問事項の絞り込みを行った。平成25年度教員アンケート質問①～④では，各10名前後が事前授業・授業検討会を活用したと回答

した。
　取組全体を通して，リハビリテーション課スタッフからは，現在の取組について，ほぼ目的に沿った取組ができているが，意義を再確認して，形式的なものにしないこと，さらに見直しも必要であるという意見をいただいた。また，保護者からは，外部専門家としっかり連携をしていくことを希望する肯定的な評価が多く，積極的にかかわりたいと考えている保護者もいることが明らかになった。「学校の先生をとおして情報を得ることはできると思うが，外部専門家と保護者が直接話ができる機会があってもよいのではないか」という意見もあった。

２）授業改善の検証について
　教員が，外部専門家を活用して自立活動の授業改善（自分の授業の見直し）に活かすことができたか，次の６点における結果をまとめる。
　①児童生徒の実態把握を深める（客観的な実態把握を行う）ことができたかについては，「とてもそう思う（16名）」「そう思う(28)名」を合わせると96.0%であった。
　選んだ理由では，「専門家の視点を学ぶことが実態把握に役立った」という回答が多数あった。活用した取組は，コンサルテーションが最も多く，次いで整形検診・リハビリテーション課との連絡会であった。「あまり思わない」では，「身体に関する学習については実態把握が深まったが，自立活動の学習活動全般においては深まったとは言えない」との回答があった。
　②児童生徒の目標設定を明確にする（目標の妥当性を高める）ことができたかについては，「とてもそう思う（10名）」「そう思う(32)名」を合わせると87.5%であった。
　選んだ理由では，「専門的な視点から実態把握をしたことで妥当性の高い目標を設定することができた」「専門家に目標を見ていただくことで目標の妥当性が高まった」という回答が多数あった。活用した取組は，コンサルテーション・整形検診が多く，次いで，リハビリテーション課との連絡会・校内での事前授業検討会であった。「あまり思わない（6名）」については，「事前にきめていた目標に合わせた手立てについての助言をもらった」「自立活動全般の目標設定を明確にすることは難しい」等の回答があった。
　③児童生徒の指導内容や指導方法を明確にすることができたかについては，「とてもそう思う（16名）」「そう思う(30)名」を合わせると97.8%であった。
　選んだ理由では，「専門的な視点を学び，より専門的で具体的な指導内容や指導方法を明確にすることができた」という回答が多かった他，「自分たちが取り組みやすい方法を教えていただけた」「活動の幅が増やせた」こと等あげられた。「専門家の子どもへの関わり方を見せていただくことで自分の取組を改善できた」という回答もあった。活用した取組は，コンサルテーション・整形検診が多く，次いで，リハビリテーション課との連絡会・校内での事前授業検討会であった。コンサルテーションでは，事前に授業内容を伝え，当日のコンサルテーションでは，教員の指導内容に即した指導・助言をしていただいたため，明確にできたと感じる教員が多かったと思われる。
　④安全・安心に取り組めるようになったかについては，「とてもそう思う（12名）」「そう思う(32)名」を合わせると95.7%であった。

選んだ理由では,「教員の取組に対して『それでよい』との評価や，よい取組という評価を得ることで安心して取り組めるようになった。」「専門家より，その場で直接，指導・助言を得ることができ，わかりやすい」という回答が多かった。活用した取組は，コンサルテーション・整形検診が多く，次いで，リハビリテーション課との連絡会・校内での事前授業検討会であった。「あまり思わない（2名）」では,「身体に関する学習については実態把握が深まったが，自立活動の学習活動全般においては深まったとは言えない」との回答があった。

⑤児童生徒の評価を明確にすることができたかについては,「とてもそう思う(10名)」「そう思う(25)名」を合わせると76.0%であった。

選んだ理由では,「実態把握や目標設定，指導内容が明確になることを通して評価がより明確になった」という回答が多かった。「あまり思わない（11名)」については,「目標は教員が立てたものを変更せず，評価を行った」「リハビリテーション課への相談を行い，目標設定は助言を活用したが，評価基準は教員が考えた」「評価にかかわる変更はなかった」等の回答があった。評価については，アドバイス等を活用したと教員とそうでない教員がいることがわかった。

⑥自立活動の授業で，児童生徒に指導の効果が見られたかについては,「とてもそう思う（12名)」「そう思う(25)名」を合わせると86.0%であった。

記述回答を見ると，専門家の指導・助言を得て授業が改善されたことで，さまざまな児童生徒の変容が見られたことが伺える。「あまり思わない（６名)」については,「いざ実践してみると難しかった」「リハビリテーション課への相談を行い，実態把握について相談し，目標や指導内容は教員が考えた」「児童生徒の変容が明確には見られなかった」等の回答があった。

平成26年１月に行ったアンケート（回答数33）では,**「自立活動の指導について，外部専門家を導入した授業改善のシステムを活用して，指導力の向上につながったか」**という問いに対し,「つながった」との回答が32名（84.2%),「どちらとも言えない」との回答が６名（15.8%),「つながっていない」との回答は０であった。「つながった」を選んだ理由は，専門的な視点を学ぶことができたこと，指導方法の改善が得られたことが多く，個別の指導計画に反映できた，リハビリテーション課スタッフまたは保護者との連携ができたとの回答も少数あった。「どちらとも言えない」を選んだ理由は,「授業改善のシステム自体を，もう少し構造化・簡素化する必要がある」や「目標や内容を理解はできたが、一番直結したスキルの面では向上したといえない」「授業担当時数が少なく継続した取組ができなかった」等であった。

以上のアンケートから，取り組んだ教員の約8割が授業改善及び指導力の向上ができたと感じているが，課題もあることがわかった。